

戦後80年

# 遠ざかる記憶

## 未来へのバトン

『歩けません、早く殺して下さい(後略)』  
(中略)後れては大事だと後に心を残しつつ  
去ることのつらさは

胸を突かれる思いであった――

ビルマの戦いにて、経退却の様子  
井手貞(「戦時物語」(個人蔵)より)



## 武雄からの出征

昭和6年(1931)に始まった満州事変や、昭和12年(1937)からの日中戦争により、日本と中国の戦争は泥沼化。中国を支援するアメリカやイギリスなどとの戦いへとつながっていきました。武雄からも召集令状を受け取った若者たちが戦地に向かいました。出征式の様子を写した写真や、千人針などからは、武雄と戦争との関わりが見えてきます。



三間坂駅での出征式の様子 [個人蔵]



出征旗 [武雄市蔵]



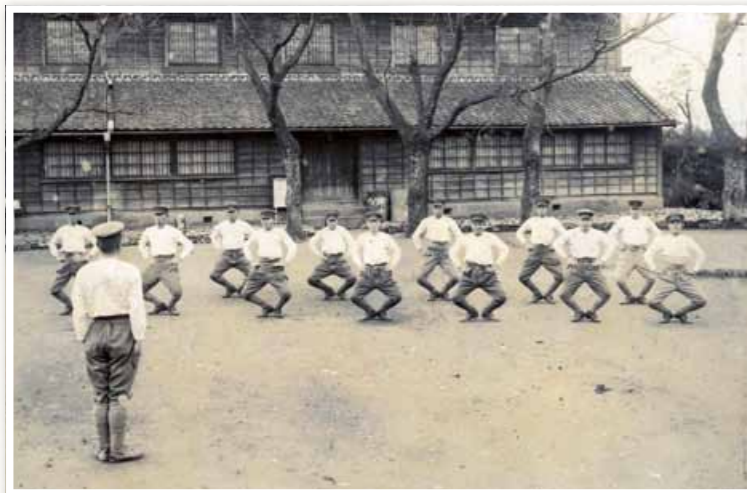
出征前の激励 家族集合写真 [個人蔵]



千人針の様子 [武雄市教育委員会]



千人針 [武雄市蔵]



軍隊生活 体操 [個人蔵]



戦地から持ち帰ったヤシの実 [個人蔵]

日中戦争の長期化や、アメリカによる日本へのくず鉄・銅などの輸出制限などにより、資源の少ない日本は鉄や銅などの金属不足になりました。政府は、戦争に必要な金属を確保するため、金属類を政府に提供するように国民によびかけました。それでも不足したため、昭和16(1941)年に金属類回収令をだして、多くの金属類を回収しました。

また、木造家屋が多い日本では、空襲により火災が発生し、大災害となることが予想されました。そのため、一般市民も防空活動を担い、各地で空襲に備えて防空演習が盛んにおこなわれました。昭和12年(1937)に防空法施行、戦況の逼迫に伴い改正されるなど防空施策が推進されましたが、実際の消火活動は主として原始的なバケツリレーに頼らざるを得ませんでした。



金属供出による回収前の薬師如来像(武雄町)  
[武雄市教育委員会]



金属供出された梵鐘の告别式 [武雄市教育委員会]



防護団による防空演習の記念写真(廣福護国禅寺階下)  
[武雄市教育委員会]



防空頭巾 [武雄市蔵]



日中戦争戦死者の合同葬 [武雄市教育委員会]



時局防空必携 [武雄市蔵]

## 戦時物語 [個人蔵]

武雄出身でビルマ(現在のミャンマー)に出征した井手貞一さんによる手記です。戦争体験や収容所で  
の捕虜生活について、懺悔や鎮魂を込めてまとめた「戦時物語」と、戦前戦後の井手さんの状況や思い  
出などを綴った「僕の一生」という構成になっています。

井手さんは戦地での体験を、ジャングルでは竹の皮に、捕虜になってからは支給される缶詰のラベルを  
剥がしてその裏にメモをしていたといいます。終戦から33年となる昭和53年(1978)8月15日に、周囲の勧め  
もあり、手記にまとめられました。B4版の紙に文字が埋め尽くされ、ところどころに手書きのイラストが掲載  
されています。

手記には「再び戦争歴史を繰返されるような間違いが無いように」と冒頭に書かれ、「国内外の人命を  
失い荒廃せしめた障害を償う術はなく、只管に懺悔の外に信義はないものと察する」と記されています。

…次はヒリッピン国に出航することになった。五十隻の船団であったものが半分か1/3  
位の数に減ってしまっていて進行することになったが、特にヒリッピン海峡が潜水艦の攻撃が  
劇烈であるとのことで、今度は僕達の船も危険で覚悟していなければならんと決心して出  
航したのであった。…我が乗船は難を免かれてやつのことでヒリッピン国のマニラ港に  
到着し得たのであった。…

…港の中には前に到着した船と我々の残り船とで30隻以上の船が沉湾の中一ぱいに浮  
いていた。ところが我々が到着した三日目に米国の飛行機が30機襲撃して来て、大爆撃を  
開始して、耳も裂けるような爆弾投下の撃音が3時間位続き、全部の船が爆沈されてしまっ  
て油船などは三日間も燃え続けていて、全く地獄の感じがしていた。マニラ港に碇泊して  
いた船は全部残らず撃沈してしまった。陸上にも弾丸は落下したが死亡者はなく幸であっ  
た。海面上には種々の荷物が沢山浮上していて、どの船のものか又誰の持物か混合して、ポ  
カ／＼と幾日も浮き廻っていたのであった。…

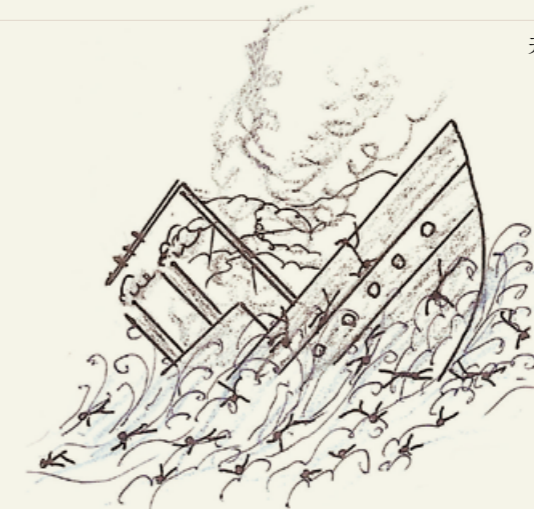
井手貞一「僕の一生」より一部抜粋



(イラスト) 爆撃を受け、炎上・沈没する船舶／井手貞一「僕の一生」より

魚雷が機関部をそれて他の部に当れば、船体は次第に荒波中に沈下してゆき、マゴ／＼  
していると船体と共に吸い込れるので、一同は急いで荒波中に飛びこんで船体を逃ざか  
り、荒波にゆられながら救助船が来るまで赤いへびの泳ぐ中に、14時間—24時間—33時  
間などそのまゝ、波にもまれ／＼て浮いていたが、救助船が来てワイヤーを投げ流しこれに  
つかまえられるが、長時間泳いで体力のない人は手を離して沈んでゆき、又やっとな乗船が  
出来ても安心して船上で失命する人もあり、激沈でも半数人員は失つてしまつて残念であ  
つた。

井手貞一「戦時物語」「二、激沈」より



(イラスト) 激沈／井手貞一「戦時物語」より

『歩けません、早く殺して下さい。そのピストルで射して下さい。敵に追いつかれると取り  
しめにあいますからどうぞお願いします』と、男装の女性は悲しい声で合掌するものもある  
…誠に可愛想だとは深く同情すれど何の罰もない味方の女性を殺生する勇気も胆力も  
なく、我が部隊に後れると部隊長は戦死かと心配する。後れては大事だと後に心を残し  
つゝ、去ることのつらさは胸を突かれる思いであった。こうして昇天された看護婦さん方の  
最後は誠に断腸の思いであった。

ビルマの戦いにて、総退却の様子(一部抜粋)  
井手貞一「戦時物語」より



(イラスト) ビルマの戦いにて、総退却の様子／井手貞一「戦時物語」より

井手貞一さんは、明治31年(1898)に、佐賀県杵島郡住吉村(現在の武雄市山内町)に生まれました、昭和19年(1944)、46歳という兵士としてはかなりの高齢で臨時招集を受け、第四十九師団防疫給水部員としてビルマ戦争に従軍しました。終戦後はイギリス軍の捕虜となり、収容所で生活した後、日本へ帰国。武雄保健所などで検査技師として衛生検査業務に従事しました。

●参考文献  
大野城市教育委員会「大野城市の戦争とくらし」大野城市の文化財 第51集(2021)



認識票 [個人蔵]



懐中時計 [個人蔵]



陸軍武官正帽 [個人蔵]



井手貞一さん・ツルさん夫妻 結婚式 [個人蔵]



陸軍尉官指揮刀 [個人蔵]



ゴムの葉(ビルマにて師団長書付の和歌) [個人蔵]



井手貞一「南十字星」 [個人蔵]

## ～未来へのバトン～ 市史編さんの窓から

武雄市では、新しい市史の編さん事業に取り組んでいます。さまざまな資料を収集する中で、戦争に関する資料についても、広く提供を呼び掛けてきました。その一部をご紹介します。かたちある資料を次の世代へ引継ぎ、過去の事象を記録に残すこと、そしてそれを「未来へのバトン」としてつなぐ重要な役割があります。

### 佐賀県立武雄高等女学校・佐賀県立武雄中学校の卒業記念写真帳より

戦争が長期化し、学校生活も次第に戦時色が強まっていく様子が見えてきます。



勤勞作業 (佐賀県立武雄中学校S18.3月発行)

#### 野外教練

(佐賀県立武雄中学校S17.3月発行)

① 武雄町下西山砥石川の山中に昭和14年頃建設された射撃訓練場。学生はその造成のための勤勞奉仕作業にも動員されました。



#### 戦線を偲ぶ

(佐賀県立武雄高等女学校S17.3月発行)

② 女学生の前には、戦線の兵隊さんへの思いが詰まった日の丸印の慰問袋が並んでいます。  
③ 押し合いながら掲示板に見入る女学生たち。「急告!! 十二月八日未明 西太平洋ニ於テ日米戦闘状態ニ入レリ」と新たな戦局を告げています。

## 昭和二十年日記

石井良一(1869～1950)さんは、杵島郡武雄村(現在の武雄市武雄町)上西山に生まれ、博多駅長・門司駅長を経て、初代若松市長などを務めました。帰郷後は、本格的に郷土史の研究に打ち込み、その成果は昭和31年に遺族により発刊された『武雄史』としてまとめられ、武雄郷土史解明の先駆として貴重な一冊です。

石井さんは、82歳で亡くなるまで毎日日記をつけており、戦時中の出来事も克明に記録しています。例えば、昭和20年3月27日、孫・義彦さん(元武雄市長)の県立武雄中学校(現在の武雄高校)の卒業式へ列席。式中、代表挨拶を述べる予定でしたが、空襲警報発令により式は中止となったことがわかります。また、8月7日には、高橋駅―北方駅間での、米軍グラマン機による上り列車襲撃についての記述があります。伝聞ではありますが、この事件に関する記録は少なく、非常に貴重です。日記内では、空襲警報の記録は赤色で時間まで詳しく記載されています。武雄でも頻繁に空襲警報が発令されていた状況がよくわかります。



■ 石井良一「昭和二十年日記」〔個人蔵〕

## 戦争体験記「草木新たに」～この豊かさの中で～ 山内町婦人会発行

「戦争に征かれた人々の苦勞、若くして戦場に散った命、残された家族の心情、筆舌に尽くし難い血のにじむような体験の数々、銃後も戦場と化し歯を食いしばって耐えた日々、年月が経つにつれ忘れてしまいそうになる。子どもたちに戦争がいかに悲惨なものであり、平和がどんなに有難いものであるかを語り伝える責任がある」との思いで平成3年にまとめられた本です。

終戦から40年近く経って記された記録・記憶・証言の数々は、当事者から直接体験を聞き取ることが難しくなった今、貴重な情報が得られる資料となります。

例えば、体験記のひとつに「学校では全校生徒を数組に分けて次々に出征される兵隊さんを交代で三間坂駅頭に見送った。日の丸の小旗を振りかざし、軍歌を歌って大野街道を三間坂駅の方へと行軍し勇士達を見送る行事は昭和二十年八月まで続いた。」という記事があります。その光景は、2頁の「三間坂駅での出征の様子」の写真の光景と重なり、一枚の写真に、より臨場感をもたせてくれます。



**過去から未来へ、地域の歴史を知り次の世代へとつないでいく、  
市史編さん事業では、今後も地域に残されたさまざまな資料の収集を継続していきます。**

●協力者・協力機関一覧(敬称略・五十音順)

井手 勲/井原 昭子/奥 聰子/田中 友子/中村 真/松尾 勇雄/松尾 近一/宮崎 由裕/山村 智子

一般財団法人清香奨学会/株式会社ケーブルワン/北方おはなし会 すくらむ/

佐賀県立武雄高等学校/武雄高等学校同窓会武陵会/武雄市遺族会/武雄市立山内西小学校/陸上自衛隊日達原駐屯地

○本パンフレットは、武雄市図書館・歴史資料館が開催する企画展「戦後80年 遠ざかる記憶 未来へのバトン」に合わせて作成したものである。

○企画展「戦後80年 遠ざかる記憶 未来へのバトン」の開催期間は、令和7年(2025)8月2日(土)～9月7日(日)である。

○本パンフレットは、展示した資料の全てを掲載するものではない。

○文字資料の翻刻は原文のまま書き起こすことを基本とし、必要に応じて句読点を追加するなどした。